

生活リハビリテーションセンターだより

■研修会報告

令和7年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

第1回研修会「復職支援における医療と福祉の連携

～当事者の体験談を交えて～

令和7年6月18日(水)「令和7年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 第1回研修会」を開催しました。

昨年度の高次脳機能障害支援コーディネーター全国協議会において主催者より依頼を受け報告を行った復職支援事例について、今回は、連携した医療機関と当事者の方にもご登壇いただき体験談を交えながらの事例紹介を行いました。

第1部では、独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院 メディカルサポートセンターの医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）である安部成美氏より、大阪ろうさい病院の治療と就労の両立支援についてご紹介いただきました。また、センター支援コーディネーターの別府より、センター自立訓練利用者に対する復職支援の流れや、支援の有効性について説明を行いました。

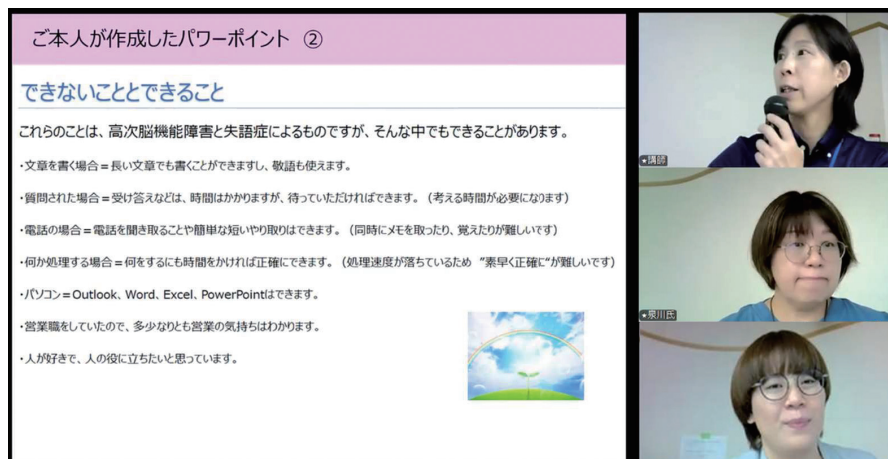
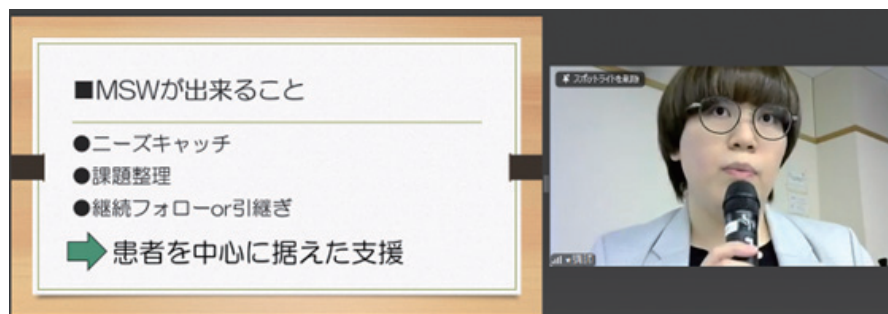
第2部では、事例の当事者である泉川ゆかり氏にご登壇いただき、MSWの安部氏と支援コーディネーターの別府との3者の座談会形式で復職までの取り組みについて紹介しました。

発症時から復職まで約3年間にわたる経過とその時々のお気持ちについてお聞きしながら、医療機関と福祉機関がどのように連携したのかを具体的に報告しました。MSWの安部氏が入院中から泉川氏に寄り添いきめ細やかな対応をされていたこと、復職を見据えてセンターや職場との連携を早期に図っておられたことなどが、当事者の安心につながったのだと感じました。また、泉川氏が身体の麻痺に加え失語症や高次脳機能障害の後遺障害を抱え、不安や葛

藤の中で「自分にできることをする」という強い気持ちをもって訓練に取り組まれていたことをお話され、改めてそのご努力に頭の下がる思いでした。最後のメッセージとして、ご家族への大きな感謝の気持ちを語られたことがとても印象的でした。

研修会には会場、オンラインあわせて80名近くの参加があり、そのうち医療機関の方が6割と医療機関における復職支援に対する関心の高さがうかがわれました。アンケートでは、当事者の方のお話を直接聞くことができ今後の支援の参考になった、との感想をたくさんいただきました。センターの職員も事例の支援を振り返り、改めて身の引き締まる研修会となりました。

今後もより良い支援のために、当事者の方の気持ちに寄り添いながら関係機関と連携して参りたいと思います。



第2回研修会「脳の病気やけがの後に起こる眼症状とその対応」

令和7年8月30日(土)に令和7年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 第2回研修会を開催しました。

講師には、日頃から病気やケガの後の見えにくさのある方の相談をさせていただいている武田眼科院長の武田純爾先生をお招きし「脳障害による眼症状とその対応」というテーマで講義をいただきました。なぜ脳の障害が見え方に影響するのか? 損傷部位によってどのような症状が出るのか? など、多くの症例を交えながら神経眼科医の視点から詳しくお話をいただきました。普段、私たちは何気なく視覚情報を頼りに生活していますが、視野が欠けることやモノが二重に見える複視による生活への影響は大きく興味深い講義内容でした。

今回の研修会は、当日オンライン開催と後日視聴いただくオンデマンド配信という初めての開催形式をとりました。また、講師が受講者の反応を見ながら話す方が良くと考え、数名の方々には会場での参加をお願いしました。当日参加者からは、活発な質問があり「半盲と空間無視の違いがよく分かった。」「複視のある方が代償手段とし

て首を傾けている理由が理解できた。」など、今後の対応に活用できるとの感想がありました。

また、オンデマンド配信には100名を超える申し込みをいただきました。「見えにくさ」は、周囲からは分からないため理解されづらい困り事です。支援者が病気やケガの後の見え方について理解を深めることは、当事者へのより良いかわり方に繋がります。今後も支援の参考になる研修会を開催していきたいと思います。



脳障害による視野障害

- 両耳側半盲 脳腫瘍が多い
- 両鼻側半盲 一稀
- **同名半盲 1/4盲 脳血管障害、頭部外傷が多い**
- 上半盲、下半盲 一稀

※半側空間無視 見えているが注意を払えない(後述)

★講師 武田先生

令和7年度 第1回学習懇談会



できました。

当事者とこどもたちはパン作り、妻や夫、親といったご家族は座談会形式の交流会と2つのグループに分かれてスタートしました。パン作りでは、みんなで粉を混ぜて生地をこね、発酵を待つ時間に屋上庭園で収穫したイチゴを使ったジャムも作りました。ふわふわに膨らんだ生地をオーブンに入れるとこんがりとおいしそうなパンが焼きあがりました。

ご家族の交流会では、病気やケガのあとの1、2年経過するなかで思うこと、さらに数年が経ってからのご家族としての思いや経験を話していただきまし

た。同じ立場で共感し合えること、先に経験した方が次の方へその思いを話していただくことは私たち職員にはできないことです。最後は焼きたてのパンにいちごジャムの他にもあんこや玉子をはさんで皆さんで美味しくいただきました。

これから当事者や家族同士が交流できる時間を大切にしていきたいと思います。

これから当事者や家族同士が交流できる時間を大切にしていきたいと思います。



『防災について考えてみましょう』



当センターのような障害福祉サービス事業所は、大きな自然災害や感染症拡大が生じた際にも障害者の日常生活を維持するために速やかにサービス提供を再開できるように事業継続計画（BCP）の策定が義務付けられています。これまで毎年BCPの見直しや視聴教材を用いた職員研修を行ってききましたが、今回初めての取り組みとして利用者様やご家族にも参加いただくプログラムを通じて、より実効性のあるBCP策定につなげようと企画しました。

9月3日（水）には、「防災について考えてみましょう」と題した終日特別プログラムを利用者様とご家族12名と職員13名が参加して実施しました。当日のプログラムは、午前中に防災士（日本防災士会大阪府支部堺ブロック）による講話があり、災害時の具体的な話を通して「悲観的（最悪を想定して）に準備し、楽観的（落ち着いて）に対処する」ことの大切さについて学ぶことができました。また、災害時伝言ダイヤルを実際に使ったメッセージをやり取りする練習や非常食として備蓄しているカレーライスを調理し昼食にしました。

午後からは、センターBCPの紹介と過去の台風被害や新型コロナ感染症拡大時に体験した困り事などをもとに、小グループに分かれて災害時に想定される困り事についての意見交換会を行いました。台風では、通院先

から帰宅できなかったエピソードや停電で困った話があり、また新型コロナウイルス感染症では、得体のしれない感染症に社会全体が惑わされた不安やマスク着用のストレスなどの意見が出ました。さらに、ご家族から「現在、毎日の医療的ケアを受ける必要があり、ライフラインが数日止まれば、最悪の事態を考えなくては行けないので日頃から主治医に相談しておく必要を感じた。」など切実な思いを發表いただきました。

今回、利用者様・ご家族の体験や意見を聞くことができたことに加え、実際に利用者様と一緒に災害時伝言ダイヤルを使って安否確認の方法を検討できたことなど、学びの多い1日となりました。

センターとして、有事の際には被害を最小限に抑え、速やかに業務を再開し、1日でも早く利用者様やご家族が日常生活を取り戻すことができるよう「悲観的準備と楽観的行動」を実行できるよう努力していききたいと思います。



屋上庭園のブルーベリー畑

健康福祉プラザの屋上庭園にはブルーベリーが植樹されていて、毎年春にスズランによく似た薄いピンクの花が咲いた後、7月頃には紫色の実をつけます。ブルーベリーの木の剪定や施肥は、センターの園芸プログラムの中で利用者様やボランティアの方々と



一緒に行っています。今年の収穫量はやや少なかったですが、晴天が続いたせいか例年に比べ甘い実ができました。

収穫したブルーベリーは調理訓練でも活用しています。今回は片麻痺のある方に、片手での調理を行う訓練として、ブルーベリーのロールケーキ作

りを行いました。生地作りを使うボウルを滑り止めシートで固定するなど色々な工夫をしながらの作業となりま

す。できた生地をオーブンで焼いていきます。ブルーベリーは、焦がさないよう注意しながら丁寧にジャムにしました。発症してから初めて調理をしたという方もあり、でき上がったケーキを食べて「初めて作ったけど美味しくできて良かった。」と安堵と達成感のこもった笑顔で話されていました。

来年もたくさんの甘いブルーベリーが実るように、利用者様と一緒にブルーベリーの木のお世話をしていきたいと思います。



月替わりプログラムのご紹介

女性利用者交流会

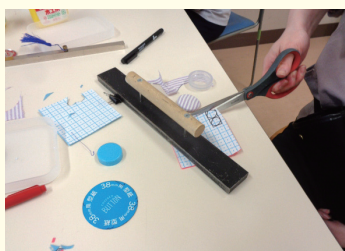
5月の月替わりプログラムは女性利用者交流会を開催し、4名の方が参加されました。最初にどのようなことに取り組みたいかを話し合い、くるみボタン作り、お菓子作り、ヨガを実施することになりました。

その1つ、くるみボタン作りでは、生地や装飾選びから始まり、配置を考えながら、自分好みのデザインにしていきます。今回の交流会には片麻痺の方も参加されており、片手での作業が難しい場面では他の利用者様に手伝ってもらいながら生地を切ったり、おもりを使って生地を固定するなどの工夫もされていました。生地を裁断した後は、くるみボタンの型に生地をはめ込み、ビーズやリボンなどで装飾をしていきました。

「ビーズがたくさんで可愛い」「デザインが素敵」と会話も弾み、とても和気あいあいとした雰囲気で作

業は進みました。また、ご自分の物だけでなく、こどもさんのためにデザインを考えてきた利用者様もおられ、でき上がったくるみボタンは、どれも個性豊かで素敵な作品に仕上がりました。

今回の女性交流会は、それぞれ利用日が違うため普段は顔を合わせない利用者様同士が、作業中は日常生活の困りごとや工夫など、色々な話題で盛り上がりました。今後も、このような情報交換の場を積極的に作っていただければと思います。



園芸活動と調理訓練

当センターでは4階の屋上庭園にて野菜や花を育てる園芸活動を利用者様と一緒にを行っています。今年はズッキーニの栽培に初めてチャレンジしました。毎朝、朝の会終了後に水やりをしたり、園芸活動の時間に雑草を抜いたり、こまめにお世話をした結果、たくさん収穫できました。収穫した野菜は持ち帰って、ご家庭で召し上がっていただいています。活動に参加された利用者様同士で「ズッキーニはきゅうりに似ているけど、どうやって調理したらいいの?」「トマトソースと一緒に煮たりしたら美味しいよ!」と楽しそうに料理の話がはずんでいました。実際に持ち帰って、調理をした利用者様からは「美味しくて家族からも好評でした」とのお声もいただきました。

また、調理訓練の食材としてズッキーニと一緒に収穫したじゃがいもとたまねぎを使って、カレーを作り

ました。ナン作りにも初めて挑戦し、「生地をこねるのが大変だったけど美味しかった」との感想をいただきました。

今後も利用者様の興味・関心のある活動を通して、より良い支援が行えるようにしたいと思います。



堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00～17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

<https://www.sakai-kfp.info/>

バックナンバーはこちらから⇒

